

方言をしゃべる建築

参加者：新井拓也、北野淳基、加藤伸康、田村啓、山形龍一、久保一樹、新井亮（帝京大学経済学部）
井戸結貴、竹ノ内芙美、長田純一、堀江潤之介、松崎貴紀、門井美樹、鶴見晋太郎、矢野裕吾
所属：信州大学大学院工学系研究科社会開発工学専攻

「まちづくり」に関して、学生ができることは何なのだろうか。

「まち」に学生の居場所はあるだろうか。

ここでは、そんなことを考える team HACILA という建築学生チームが、「門前プロジェクト」と呼ぶ、善光寺門前における歴史的建物の改修を通じてまちづくりに携わる姿を紹介する。

team HACILA × 花蔵

2009年6月10日、メールが来た。それは新たな蔵の改修の依頼で、場所が書かれていなかった。「どこの、誰だ？」とメンバー全員がドキドキしていた。その後のやりとりで善光寺の近くの蔵だとわかった。

そして6月27日、依頼者とはじめてお会いすることになった。

その蔵はすごく奥まったところにあった。

メールをくれたのは花岡紘子さん。花岡家は東町でながく商売してきた酒屋で、その倉庫として使われている蔵をどうにかしてほしいと。ご挨拶をして、いざ蔵へ。中に入るとものだらけ…。古文書や絵、樽、箆、グラスなど本当にいろんなものがあった。そして2階に行くと、今まで見たことのない大きな小屋組みに全員が感動！もちろん気に入るのに時間はかからなかった。

そしてこの蔵を改修することになった。

しかし、大問題が。1階の床板が土の上にただ敷かれているような状態だったので状態は最悪。とりあえず1階の床をどうにかしないとイケない。が、それよりも前に片づけをしないと何もできない。ということで8月10日、まず1階をカラにすることを目標に作業開始。

とりあえずせっせと片づけ。片づけと同時に床をどうするかを考えた。最終的には床はレン

MNZN PROJECT team HACILA



写真1 依頼があった花岡儀八本店



写真2 改修前の土蔵1階

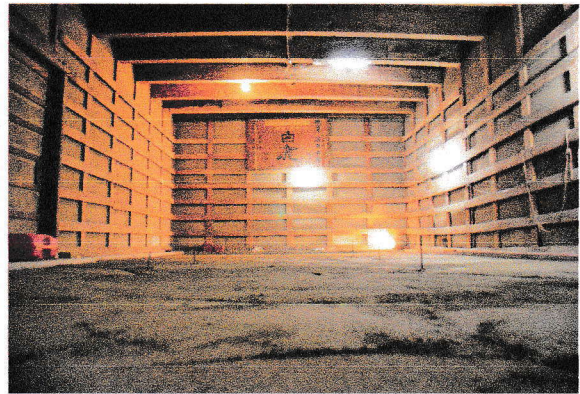


写真3 改修中の土蔵1階

ガ敷きに決まった。

しかし、問題発生！！

床をレンガにするには順に下から砂利、砂、レンガという3層構造にしなければならないことが判明。ってことはそれだけ地面を掘らないといけない。こういうときに限って人出が足りなかったり、4年は卒論で忙しくて行けなかったり散々。

しかし、3年生が主になって土砂の搬出作業を開始した。

3年生のおかげで土砂は無事搬出。が、蔵の基礎を強固にするためにコンクリートで基礎を補強することに。よって、また土砂の搬出開始。

気がつけば12月19日。2009年の作業は終わり。

2月10日。2010年の作業初め。この日はコンクリートの打設の打ち合わせ。コンクリートの打設と型枠工事については業者の方の力を借りることになった。コンクリートの打設は順調に進み、すぐに枠が外れた。

そのあとは、レンガ敷きのための整地作業。これがまた大変。レーダーで水平をはかって砂利や砂を平らにしていった。

その後すぐにレンガ敷きの作業が始まった。レンガ敷きの作業になるとまた人手が足りない状態に…。しかし、花岡家の方々が積極的に作業を手伝ってくれ、何だかんだ順調に進んだ。力を合わせてレンガ全2800個の埋設完了。

その後、2階の改修作業や全体の照明作業、アプローチの整備等、多くの作業の末、なんとか蔵を使える状態に。花岡さんは、蔵がここまでになったことにものすごく感激してくれた。

「花蔵」と名付けた蔵は、門前研究会の会議やフランス人芸術家の展覧会など、多くの門前イベントに使用されている。

2010年10月30日。私たちが企画・運営をしている「Pecha Kucha Night NAGANO 学生SP」の会場として多くの若者が花蔵に集合した。その晩は、それぞれのやり方で長野のまちづくりに関わる若者たちで、蔵の中は奮い立つような熱さだった。



写真4 レンガ敷を手伝う花岡家のお孫さん



写真5 花岡夫妻との打ち上げ



写真6 イベントで使われる土蔵2階



写真7 Pecha Kucha Night NAGANO 学生SPの様子